

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372002309		
法人名	医療法人 善恵会		
事業所名	医療法人善恵会ふくろう うらら		
所在地	愛知県豊橋市八町通三丁目119番地		
自己評価作成日	平成22年12月26日	評価結果市町村受理日	平成23年5月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市千種区内山1丁目11番16号		
訪問調査日	平成23年2月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療と介護の一体化による365日24時間の安心安全なサービスの提供

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は利用者が楽しく1日が過ごせる様にと日々考えている。日常生活の中で利用者やゆつくり会話をして思いを汲み取るよう努めている。また、利用者の生活暦を紐解き趣味を取り入れ、音楽や体操、日本画、三味線、折り紙などボランティアの先生も多数にわたっている。その中で1月に豊橋美術館で開催した「青羅」の絵画展は利用者にとって刺激になり、認知症の進行を和らげる一つとなっている。家族は「ふくろう花火バーベキュー」などホーム行事や運営推進会議に参加する人が多数あり、職員と会話する機会も多く関係は良好である。母体法人の病院と共に地域に密着しているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	医療と介護の一体化をふまえて、熱が出たりなどした時は、早めに外来受診しています。朝礼時には、理念に基づいた目標を復唱しています。	職員は理念を朝礼時に唱和しており、周知できている。また、日常生活の中で理念に添った介護を実践しているが、会議で理念の実践が出来ているか職員間で確認することもある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ふくろう祭りや地域交流会に参加して、地域の皆様と楽しく交流を持っています。	ホームは地域に知られており、日常的に地域との交流はできている。中学生、高校生の体験学習の受け入れや、三味線、川柳、体操など多方面にわたりボランティアの受け入れがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流会に参加して、認知症の方々のことを理解して頂き一人で歩いている時など、見守り保護などして頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事や会議に参加して頂き、入居者の皆さんが楽しく過ごして居る所を見て貰い、意見を伺いサービス向上に活かせる様になっています。	年6回開催している。5月に開催される「ふくろう祭り」は400名程地域の人が参加するので安全の面で検討を行い助言を貰っている。	運営推進会議の議事録を詳細に残されることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進委員会のプログラムなど市に提出し、実情やサービスの取り組みを伝え協力関係を築けるように努力しています。	介護保険制度のことでわからない時には相談している。その時にはホームの現状も説明している。また、当施設は市の避難待機場所として指定を受けており、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関はもちろんエレベーターも自由に入出入り出来る状態にしています、つなぎ服や身体拘束をしないで、職員1人々が見守りし安全にケアできるように配慮しています。	月1回は「行動の抑制はないか」などの事例検討会を行い、身体拘束禁止の具体的な行為の理解に努めている。また、言葉遣いにも気を付けており、周知徹底できている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に管理者は職員にも虐待防止については、話し合い、注意を払い防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在当施設では、権利擁護や成年後見制度を活用しなければならない人は居ないが、話し合いはしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設長が適時説明をして、理解して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会を開催し相談や苦情を第三者も交えて話し合える場を設けています。	家族と来訪時や季節行事、運営推進会議などで会話をする機会が多い。その時に要望や意見を聞いている。もらった要望や意見は職員間で検討して改善の必要があれば改善している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回以上全体会議をして、職員1人々の意見や提案を話し合い、見直しをしている。	月1回全体会議、リーダー会議を行い、職員からの提案で業務見直しを検討している。その中で朝と夕方に蒸しタオルを提供するようになり気分転換を図ってもらっているが、利用者から好評である。職員の意見は上司には伝わり、返事は返している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心を持てるよう、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全員に一度に勉強会と言っても中々できないので、その都度個々に指導して理解し、介護技術も向上できるよう指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設の行事(春祭り等)に参加したりして、交流を持ち勉強させて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	しっかり傾聴し、本人の不安を取り除くよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っていること、不安なこと、要望等を聞きながら、関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事前後のお手伝いをお願いして、一緒に準備や片付けをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が何時でも、気楽に来所して頂き、時にはご家族と外出して、お食事や買い物などに行かれるよう支援しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	何時でも、気楽に遊びに来て頂けるよう、心がけています。	入居後に歌や音楽、健康体操のボランティアなどの先生と顔馴染みとなっている。また、入居前の美容院の人が向かえに来てくれる人もいる。家族と馴染みの場所の夕食や買い物に出かけたりして継続できている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲良しの方と食事の時の席や外出は一緒に手を繋いだりして頂けるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	参加できる行事には連絡したり、時々電話したりして様子を聞いたりしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人がその人らしい暮らしが出来る様、考えて支援しています。	職員は支援を通して、利用者の思いや意思を引き出すような言葉かけを行い、一人一人が何を望んでいるかを知るように努めている。その人らしさを大切に、利用者の立場に立って思いを汲みとるように心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やお知り合いの方々に話を聞いたりして、これまでの生活や暮らしぶりの把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人との日常での会話や行動などから、把握できたことを個別カンファレンスに反映させています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にケアカンファレンスをして、話し合い職員同士が同じようし対応出来るように努めています。	モニタリングやカンファレンスで職員間の情報共有を図り支援の方向性を統一し、より良いサービスが提供できるよう努めている。また定期的に家族にケアプランと実践表を送り、暮らしの様子を知らせている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録には些細な事でも記録し、職員同士の情報の共有に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くにお城や公園、美術館などがあり散歩がてら出かけています、ボランティアの方々が協力して下さっています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医が同じ建物の中にあるので、すぐに受診できる環境にあります。	主治医の往診が月に2回ある。脳外科や循環器など他科への受診をしている利用者もいるが、紹介状で医師同士の情報提供を行い、薬の調整等は図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員も変わったことはすぐに、主任に報告し、看護職と連携できるような体制になっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	関係づくりに努めています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族とはよく話し合い本人やご家族の意向に沿うようにしています。	利用者が重度化した場合は、1階にある同法人の病院へ移転し、介護と医療が一体となって提供できるよう努めている。また家族や利用者からホームでの看取りの希望がある場合は、出来る限り希望に沿った支援をする体制でいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は、事故発生マニュアルに沿って行動するようになっています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っています。	法人全体とホーム単体で年に2回の災害訓練を実施している。その際に民生委員や市の職員の参加協力も得ている。また日頃から、緊急時の避難経路確保の為に、通路の施錠は出来るだけせず物の配置もしないよう徹底している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライドを傷つけないように配慮した言葉かけをするよう、心がけている。	利用者を否定せず、受け入れる姿勢を大切にし、自尊心を傷つけない支援に努めている。同性介護などの希望があれば、その都度対応し利用者の意向を汲むよう心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調を見たり、ペースに合わせた日常を送れるよ支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人が自ら出すことが出来ない方にも、自分の好みの物を選んで頂けるように支援することを心がけています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1人ひとりの好みになるべく添えるよう食事が楽しみなものになるよう、季節感を感じて頂けるように、出来ることは一緒に片付けなど手伝って頂いている。個別のお祝い等も実施しています。	地元で採れる魚や野菜で作る日々の料理には、利用者からの評価も高い。誕生日には利用者の好きなものを食べに出かけたり、お正月や雛祭り、敬老の日などはそれぞれの祝いに合わせた行事食を作り、季節感を大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が定期的に栄養指導をしてくれ、一人ひとりに応じた支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で出来る方には声かけしたり、一人ひとりの状態に応じた口腔ケアをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの状態に合わせ、下着等の使い分けをし、排泄パターンを把握し、トイレ誘導しています。	利用者の排泄パターンをチェック表で把握し、それに合わせて自然にトイレ誘導が出来るよう努めている。利用者の体調の衰えが進む中、トイレでの自立した排泄が継続できるよう、リハビリ体操を定期的に行い下半身強化に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	何時でも、好きな時に水分補給出来るよう努めています。食事も食物繊維の多いものや一日1回はバナナなど食べて頂けるよう心がけています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりのタイミングに合わせて、入浴前になバイタルチェックし、本人にも健康状態を確認して、安全にゆっくり入浴して頂いています。	週に3回入浴を実施している。入浴の際は利用者の身体を観察し日頃の状態を把握するようにしている。拒否をする利用者には時間差で声かけなどをするが、無理強いはないようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の自由なリズムを保つようにしていますが、遅くまで起きている方には、声掛けして翌日の活動に睡眠不足で支障がでないよう配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員一人ひとりが薬の目的や服薬の事に関して看護師による勉強会を行い服薬支援の理解は出来ています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出や外食、映画や演劇鑑賞したりなど施設の中だけでなく、外へ出かけたりして、楽しく過ごせるよう支援しています。その他、習字、絵画、体操歌などのボランティアの方が来てくださいます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩や買い物など、一人ひとりの希望にそって職員と一緒にいるのがご家族なども頻繁に来てくださり、外出など出来るよう支援しています。	利用者の希望を聞きながら、近所の梅田公園への散歩や買い物に出かけている。また自分たちの作品を出展した絵画展を美術館に見に行くなど、利用者と一緒に楽しむ外出支援を行っている。家族の協力を得て正月帰省や外泊などもしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様一人ひとりの力量に応じて本人が管理している方もいるが、ご家族や施設側で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話したり出来る所に、電話機を置いているので、好きな時にして頂いている。手紙のやり取りも自由にしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有のフロアーなどに季節に応じた花など飾ったりして、居心地の良く過ごせるよう工夫している。	利用者がくつろぐ居間には、行事ごとの写真や作品などが飾られ明るい雰囲気を感じられる。キッチンから利用者全員が見渡せるよう、テーブルの配置にも考慮しており、職員とコミュニケーションが取りやすくなっている。	共用部の換気を定期的に行い、利用者がより快適に過ごす事ができる環境づくりを期待する。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓や共有フロアーにソファを置いて気の合った入居者同士会話を楽しんだり、新聞を読んだりして、過ごしたり自室でいつでも自由に過ごすが出来よう工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人の馴染みの物を持って来て頂いて、以前の暮らしと変わらない居室にして頂いています。	入居前から使用していた筆筒や鏡、また仏壇などが持ち込まれており、利用者にとって馴染みの物に囲まれた安心出来る場となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食事準備、片付けや掃除など、出来る範囲で職員と一緒にいき、入居者様のやる気を損なわないよう配慮し、持てる力を発揮出来るよう支援しています。		

外部評価軽減要件確認票

事業所番号	2372002309
事業所名	医療法人 善恵会 ふくろう

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい（外部評価項目：2） 地域との交流は自治会を始め、婦人会、老人クラブなど日常的に行なっている。毎年5月に開催される「ふくろう祭り」は地域の人には知られており、ボランティアの参加が100名程の多数となっている。また、職員は近隣の人から、認知症について相談を受けることもある。	評価 ○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み（外部評価項目：3） 年6回開催している。出席者は市の担当者や地域包括支援センター職員、民生委員、有識者、他に利用者、利用者家族と職員である。ホームのクリスマス会や餅つき大会など地域との交流も含めた会議が主であるが、利用者家族の参加は多数となっており、意見交換はできている。それをサービスの向上に反映している。	評価 ○
重点項目③	市町村との連携（外部評価項目：4） 市役所が近隣にある。介護保険の制度や提出書類など分からない時には相談に行っている。また、市主催の講習に職員は参加している。	評価 ○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映（外部評価項目：6） 家族からは、運営推進会議やホームの行事に参加するようになってから、認知症の理解が深まったとの声がある。家族から要望や意見をもらった時には職員間で話し合い、早急に改善して家族に返事を返している。	評価 ○
重点項目⑤	その他軽減措置要件	評価
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	○
総合評価		○

【過去の軽減要件確認状況】

実施年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
総合評価	○	○				

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況（外部評価）が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取り組みがなされ、その事実が確認（記録、写真等）できること。

外部評価項目	確認事項
2. 事業所と地域のつきあい	(例示) ① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取組み	(例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取り組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) ① 家族会を定期的（年2回以上）に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的（年2回以上）に発行されている。

(注) 要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。

